

# 大人のひきこもりを何とかしたいと手を挙げたら 当事者たちによるご機嫌な動きが始まった

川初氏は「ソーシャルビジネスグランプリ2012冬」のグランプリ獲得者だが、紙幅の都合で取材が先送りになり、やっとご紹介できることになった。

## ひきこもりも生き方の選択肢に

グランプリを受賞した社会起業計画は、「大人のひきこもり オルタナティブ・ライフ・プログラム」。従来「ひきこもり」は、主に青少年の問題として認識され、支援の対象も若者を前提とするものがほとんどだった。70万人以上とされる彼らのひきこもりは長期化し、40代、50代も多い。氏の弟も15年来、社会的ひきこもり状態が続き苦しんでいた。怠惰でも人間嫌いでない。ボタンの掛け違いから誰にでも、ひきこもりは起こりうる。彼らの多くは、繊細だが、人の役に立ちたいと望んでいる。特定分野には高いスキルを示すこともある。

起業計画は、大人のひきこもり各人に合った、アウトソーシング可能な仕事を

提供すること、また、ひきこもりという選択を否定せず、生きていける道や社会のあり方を提案することだった。

グランプリから半年後の報告ステージで、「一時期何もできなくなった」と発言した氏を、正直心配した。しかし、一般社団法人コヨーテを設立、3年経って再会した氏の周りでは、心躍るイベントがたくさん開催されていた。「IORI（庵）」という、ひきこもり当事者や家族、サポーターが集い、意見交換や交流をす



イベントには多くの当事者や家族が集う

「死にたい」と言うひきこもり当事者から電話を受け、死ぬ前に一杯やろうよと、新宿ゴールデン街に誘って話したという。写真は取材後に、ごきげんなその街で撮った1枚。実は、氏自身も発達障害の一種の症状があり、デザイン事務所に勤務しながらも、世間としてくりに来ない自分を感じていた。一方、過集中の傾向は、デザインやコピーライトの仕事をする際には有利に作用したという。

■連絡先  
Mail: realogue@gmail.com

「ひきこもりUX会議」には、全国から300人が集った。「遠吠えラジオ」は、イベント後の懇親会で交わされる会話があまりにも面白いため、多くの人にも聞か

せたいと始めた、Uストリーム配信。人気を博したTV番組『ヨルタモリ』のノリだが、先に始めたのは彼らだ。

## 当事者が手を挙げて運営

展開される様々なイベントは、川初氏がアイデアを出して、グイグイと関係者を引っ張っているわけではない。取材したIORIでも、冒頭のご挨拶にさえ登場しなかった。自身の広報活動も積極的とは言い難い。不思議なことにどのイベントも、ひきこもり当事者たちが手を挙げ、サポートスタッフも現れ、ともに企画・運営をしてくれるのだそうだ。

近い将来、当事者たちとフラットな立場で、生業づくりや暮らしを支え合う仕組みを作るため、共同で「組合」を設立する話し合いも始まっている。

仕事だからと、心や体が嫌がることもやれて当然なのだろうか。川初氏や彼らは言う。「嫌なことをやって生きたくはない」「ごきげんに生きたい」。現在の社会システムのもとでは受け入れられにくいかもしれないが、どちらが人間として当たり前の感性なのか。コヨーテは、かき乱す存在でもあるという。

シリーズ

## 社会起業家

一般社団法人コヨーテ代表理事

# 川初真吾氏に聴く